



【第49期准看護師課程の戴帽式】

令和6年10月2日

自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、令和6年10月2日（水）北部方面総監部から医務官、人事部人事課長、防衛部訓練課長及び方面最先任上級曹長、そして方面衛生隊より衛生隊長並びに最先任上級曹長の臨席のもと、第49期准看護師課程の戴帽式を挙行了。この中で病院長（川口陸将）は、「諸官は、病院における看護のみならず、いかなる状況・環境においても自身と傷病者の安全を確保しつつ適切に救護し、『大切な仲間』を救う任務がある。安全保障の一翼を担う自衛官としての使命感のもと、心身を磨き、知識・技術を身につけ、人間性の強化にも励んでもらいたい。」と訓示し、学院長（本間1佐）は、「かけがえのない実習・学びの場とするために一日一日を大切に毎日新しいことに失敗を恐れずに挑戦して、同じ目標を持った同期の仲間とともに切磋琢磨しながら助け合い、准看護師として必要な知識と技術を習得することを期待する。」と式辞を述べた。

戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ28名（男性14名、女性14名）は、教官からナースキャップを戴き、学生長（栗山士長）指揮の下、衛生科精神を唱和し、「医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沈着冷静に任務に邁進する。」と誓いを立てた。

今後、学生は医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、識能の向上に努め、准看護師たる自衛官を目指すことになる。



札幌病院長（川口陸将）訓示



准看護学院長（本間1佐）式辞



戴帽の儀（女性自衛官）



戴帽の儀（男性自衛官）



衛生科精神唱和